

授業科目名	オリンピック／パラリンピックの 理念と歴史	単位数	2 単位
担当教員名	杉山正明	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	スポーツ庁「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」担当大学にて、全国の研究指定校にオリパラ教育を推進した。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志をもつこと。</li> <li>・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自立的な課題探究能力を身に付けていること。</li> </ul>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 近代オリンピック・パラリンピック競技大会の理念について歴史的事実を踏まえて理解する。</li> <li>(2) 今まで実施されてきたオリンピック・パラリンピック競技大会のエピソードから、スポーツの持つ価値を見出すことができる。</li> <li>(3) スポーツを通じた共生社会のあり方について意見を持つことができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>クーベルタンが近代オリンピック大会を復興したきっかけおよびその理念は「オリンピズム」といわれている。その理念は今なお受け継がれて私たちにスポーツの素晴らしさを与えてくれている。また、パラリンピック大会の誕生の背景や大会の変遷を検証していくと、時代とともにスポーツそのものの在り方の変化が感じられる。オリンピック・パラリンピック競技大会のエピソード等を振り返りながら、その理念を理解し、スポーツの持つ価値やスポーツを通じた共生社会のあり方について印刷教材をもとに考察していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：古代オリンピックの変遷</p> <p>第2回：クーベルタンと近代オリンピック復興</p> <p>第3回：オリンピック憲章とオリンピック・ムーブメント</p> <p>第4回：オリンピズムとフェアプレー</p> <p>第5回：聖火リレーの起源</p> <p>第6回：嘉納治五郎と日本のオリンピック大会</p> <p>第7回：幻の東京オリンピックと1964東京オリンピック</p> <p>第8回：オリンピックレガシー</p> <p>第9回：オリンピックと経済</p> <p>第10回：オリンピックと環境</p> <p>第11回：オリンピックの光と影</p> <p>第12回：パラリンピックの歴史とその意義</p> <p>第13回：パラリンピックの種目と用具の進化</p> <p>第14回：パラリンピックがもたらすスポーツ社会への影響</p> <p>第15回：スポーツを通じた共生社会のあり方</p>			

テキスト

- (1) 石出 法太、石出 みどり『これならわかる オリンピックの歴史 Q & A』大月書店  
2016年

参考書・参考資料等

- (1) ローラント・ナウル(2016)『オリンピック教育』大修館書店  
(2) 講談社 編(2014)『文学者の見た世紀の祭典 東京オリンピック』講談社  
(3) 日本オリンピック・アカデミー編著(2016)『JOAオリンピック小事典』メディア  
パル

学生に対する評価

レポート評価(50%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。